

The usefulness of the Stroop effect during sorting movements.- Aging differences in microslip and Stroop interference rate -

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/41305

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



平成 26 年 8 月 7 日

博士論文審査結果報告書

報告番号

学籍番号 0627022008

氏 名 北山 和志

論文審査員

主 査（教授） 少作 隆子

副 査（教授） 染矢 富士子

副 査（教授） 柴田 克之



論文題名 The usefulness of the Stroop effect during sorting movements -Aging differences in microslip and Stroop interference rate-

論文審査結果

【論文内容の要旨】

遂行機能は人が円滑に日常生活を営むために必要な認知機能である。しかし認知症の初期症状によって遂行機能は低下し、周囲の状況変化にスムーズな対応できなくなることが報告されている。この遂行機能を評価する検査の一つに stroop テストがある。一般的な方法は刺激カードを言語で分類し、所要時間のみの計測となるが、今回は動作でカードを分類することとした。本研究の目的は、所要時間と動作性のマイクロスリップ数（躊躇反応）の関係と、さらに若年群と壮年群間での課題処理の違いを明らかにすることである。

対象者は、若年群 30 名と壮年群 30 名であり、両群ともに所要時間とマイクロスリップ数には正の高い相関を示した。また若年群と壮年群の比較では、簡単な単一課題では差は生じなかったが、色と文字が不一致な複合課題において、壮年群が若年群に比べて有意に時間が遅延し、ストロープ干渉率、マイクロスリップ数も有意に増加を示した。以上の結果により、加齢に伴い、遂行機能低下の一指標となる遂行時間の遅延と、不一致条件で内容を理解する意味的葛藤と応答時の反応的葛藤が壮年群においてより生じており、加齢とともに遂行機能が低下することが示された。

【審査結果の要旨】

本研究は、遂行機能の評価である stroop テストを動作を用いて行い、動作の躊躇する様相（マイクロスリップ）を視覚的に捉えることができた。また stroop テストを用いた、若年群や高齢群を対象とした基礎的なデータは報告されているが、壮年群に関する報告はなく、今回の壮年群のコントロールデータを基に、壮年群の遂行機能の低下を判定する臨床的意義も高い。以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士（保健学）の学位を授与するに値すると評価する。